



学びの連続性の中で育む「学びを創り続ける子ども」 ～大阪教育大学平野五校園共同研究～

本校では、小学校における「学びを創り続ける子どもの育成」をめざした研究と合わせて、平野五校園共同研究として「学びのユニバーサルデザイン」を取り入れた授業づくりに取り組んでいます。

11月7日（土）には、幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校共同による授業研究発表会が開催されました。13の教科・領域・交流部会において、「平野における学びのユニバーサルデザイン」として「学び合い活動」「ICT活用」を取り入れた保育・授業提案を行いました。多くの方にご参会いただき、ともに研究を深めていくことができました。ありがとうございました。



社会科「本校社会科におけるコンピテンシーベースのカリキュラムづくり」

社会科では、子どもの思いやねがいによって学習を進めていき、「自律する力」「協力する力」「道具や知識を使う力」の3つを育て、「問題意識を持ち続ける子ども」を育てるカリキュラムづくりを研究しています。子どもの思いやねがいを大切にして、興味・関心が掻き立てられる授業展開とコンピテンシー（資質・能力）をベースにしてカリキュラムが機能しているか分析しながら、社会科としてよりよいカリキュラムになっているか評価をします。学びを創り続ける子どもが育つカリキュラムとしてより良く作用するようにその評価を活かし修正していきます。

また、11月には五校園共同研究発表を行い、「社会科の授業におけるアクティブラーニング」と題してジグソー型学習の提案をしました。高校・中学校・小学校全てが産業という同じテーマで提案授業を行い、多くの参会者に来ていただきました。また、ICTを活用しながら、子どもの主体的な活動をさらに推進できるような実践を日々重ねています。



家庭科「より良い生活を創り続ける子どもを育てるカリキュラム」

家庭科では、研究テーマ「生活を見つめ、より良い生活を創り続ける子ども育てるカリキュラムづくり」のもと、身近な課題に気づき、主体的に解決していこうとする子どもの育成を目指しております。

今年度は、それぞれの学びを「点」で終わらせるのではなく、「線」としてつなげ、子どもたちが課題を「自分事」と捉え、自ら学びを創り続けていくことのできるカリキュラム作成とその視点に着目し、研究を進めていきたいと考えております。

学校行事や子どもたちの実生活とつながったカリキュラムを作成することにより、子どもたちにとって、課題がより身近なものとなるだけでなく、課題を解決する中で、自分たちの生活がより良くなることが感じられたり、新たな課題を発見することができるようにしていくことができればと思います。

1学期は、臨海学舎での服装をテーマに衣服の働きについて考える活動を行いました。



共に学びを創り続ける ～秋の公開授業～

学びを創り続ける子どもの育成にむけ、子どもと教員で、共に学びを創り続けることができる授業をめざし、日々授業実践を積み重ねています。秋の授業公開では、これまでの授業公開、研究討議を踏まえ、研究協力員のみなさまとともに、カリキュラムについて討議を繰り広げていくことができる研究討議の場の構成に取り組みました。

春の論提案・授業提案を踏まえ、より研究協力員のみなさまと研究を深めていくことができるように、討議会の在り方を、教科・領域の特性に合わせてコーディネートしました。

授業提案を踏まえ、来年度の計画カリキュラムとともに考えていくグループ討議（音楽）や、提案されたカリキュラムの形式の再検討を図るワールドカフェによる討議（算数）など、共にカリキュラムについて考えていくことができるようにしました。



より討議を活発にする参観ワークシートの活用も、教科・領域の特性に合わせ検討しました。一人ひとりが主体的に研究にかかわっていただくことができるようにすることで、協働して研究を深め、新たな研究の方向性を創造していくことができました。

春に引き続き、鹿毛雅治先生（慶應義塾大学）にも来校いただき、研究の深化に向けての示唆を頂きました。さらに、2月の授業研究発表会に向け、研究をより「主体的」「協働的」「創造的」に推し進めていきたいと思えます。



コラム 縦割り班活動「附小カーニバル」

本校の子どもたちは、住んでいる地域から離れた学校に通学しているため、地域に根付いた人間関係を築きにくい環境にあります。そこで、多様な人間関係を環境設定し、多面的に活動する場として、1年生～6年生までによる友だち班活動（縦割り班活動）を展開しています。

友だち班活動では、集団としての一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築いていこうとする「主体的」「協調的」「創造的・実践的」な態度の育成を目指しています。

	主体的な態度	協調的な態度	創造的・実践的な態度
低学年	活動に楽しさを感じながら活動している。	友だちや年齢の異なる子どもと一緒に活動できる。	自分のやろうとすることを最後までやり遂げることができる。
中学年	活動を楽しみながら、自分にできることを進んでしようとする。	誰でも協力して活動し、上級生の様子を見て自分の考えをもつと共に、下級生と関わろうとする。	自分なりの工夫をして、最後まで活動することができる。
高学年	リーダーとしての自覚をもって活動している。	集団を意識し、互いのよさを認め協力し、自らの力を発揮し合おうとする。	計画をたて、よりよく実践するために、最後までねばり強く取り組むことができる。

年間を通して、上記のような、子どもと教員がめざす姿を共有し、随時、具体的な姿を明確にしながらか活動を進めていくことができるようにしています。

友だち班活動では、新しいメンバーと親交を深める「友だち班パーティー」（5月）、1年生～6年生が力を合わせてイベントを行う「附小カーニバル」（10月）、これまでお世話になった6年生の旅立ちを祝う「お別れ会」（3月）の3大イベントがあります。

その1つ「附小カーニバル」は、各班の1年生～6年生が力を合わせて、イベントを行う行事となっています。テーマは、「平野のよさを伝えよう」です。

平野に伝わるだんじり祭りを伝えたり、昔の町並みを伝えたりするために地域に出て取材をします。それぞれがめざす姿を明確にし、お互い支え合い、刺激し合い創り上げていきます。異学年集団とし



て取り組むことで、「何をすればいいのか、班長さんに教えてもらったよ。あんなお姉さんみたいになりたいな。」「〇〇さんは、初めてのカーニバルだけれども、一生懸命、お客さんにせつめいしていたよ。」と自らの成長をふりかえり、将来像を描き成長していくことにつながっています。

この友だち班活動のメンバーは、さまざまな地域から通学している子どもたちが安全に、そして、新たな人間関係を築いていくことができるように、通学地域や経路が近い子どもたちで構成しています。共に通学のマナー（公共のマナー）を意識し、相互に働きかけをすることで、安全な通学を促すことができます。日常から様々な活動の中で人間関係を培っていく中で、信